



ユーカリが丘国際福祉専門学校 開校式「鏡開き」

ユーカリが丘版「カレッジリンク型CCRC」 福祉と教育を融合した街づくり

ユーカリが丘の街づくりが始まって50年余りの時が過ぎ、今もなお進化し続けるユーカリが丘の街の北口駅前、2025年4月「ユーカリが丘国際福祉専門学校」が開校しました。

この学校は、「こども保育学科」、「介護福祉学科」、「国際福祉ケア学科」の3つの学科があり、介護施設6施設と病院を運営する社会福祉法人ユーカリ優都會が、今後最も必要とされる保育・介護に携わる福祉人材を育成するために設立しました。

この学校の教育理念は「創意工夫（常に創意工夫により発展的思考ができる人材）」と「積極（積極的に物事を理解し実践できる人材）」「協働（人

と人が共同して働くこ

とができる人材」です。そして、学んだことを実践できる「実学主義」と奉仕の心を育てる「奉仕の精神」を大切にしたい建学の精神で、専門の知識・技能・技術を通じて福祉に寄与する実践的な人材の育成を目指し、地域社会及び国際社会に貢献します。

さらに、学費の負担を軽減する独自の貸与奨学金制度や、生活環境を整えるための住まいサポート、入学から卒業後までの就職サポートなど、学生生活を支援する体制も充実しています。



開校した専門学校の外観（本館）

開校にあたり、学校設立までの経緯と街づくりにおける学校の位置づけや今後の展開など、山万株式会社代表取締役副会長兼ユーカリ優都會副理事長の林新一郎氏にお話を伺いました。

少子高齢化を 見据えた

先駆的な取り組み

我が国では、少子高齢化対策に対して、これまで有効な具体的対策が為されてこなかった結果、日本全体の出生率低下が加速し、社会や経済に深刻な影響を与えています。

ユーカリが丘では、1990年代から少子高齢化の進行を見越し、全国各地の保育・介護施設の視察や独自の住民アンケートを実施し、地域課題を把握しつつ、データに基づいた施策を展開してきました。

そして、子育て支援施設の整備と共に高齢者向けの介護施設や病院の整備を積極的に進め、健康寿命を延ばすためのアクティビティやリハビリ施設の充実を図っています。これにより、高齢者の健康を支えつつ、地域全体の活力を維持することを目指しています。



待機児童問題への 挑戦と解決策

ユーカリが丘では、1997年に行った独自の調査で待機児童の存在を確認してしま

した。実態を反映したデータを基に1999年駅前に無認可保育所「ハローキッズ」を開設。その後、日本全体で少子化と待機児童問題が顕在化し、5年後に同施設は千葉県初の民間企業が運営する認可保育所となりました。

さらに、駅前の利便性の高い場所に保育施設を増設し、保育園と幼稚園の教育を融合させた独自のプログラムを導入。これにより、子どもたちの発達を総合的に支援する体制を整え、地域の子育て環境を大幅に改善しました。